fca

設計＝堀部安嗣

〈ｆｃａ〉は堀部安嗣氏が設計し、福岡を拠点とする斉藤工務店が販売・建設する量産住宅である。二〇一七年、まずそのモデルハウスが福岡市内の住宅展示場に建てられた。

注文住宅に対置される量産住宅は、現代の建築における平凡を考える上で重要な意味を持つに違いない。実際、建築の物理的なあり方に止まらず、政治や経済のシステムにも強固に組み込まれた量産住宅は、その各々がスタイルやスペックのヴァラエティを拠りどころにしながらも、総体として今の日本の平均的な風景をかたちづくっている。

一般的に言って、建築の設計では敷地の固有性や施主の固有性に真摯に向き合うことが重んじられる。しかし量産住宅ではそれは望めない。そこを度外視することで、より安く、より早く、より多くの住宅を供給できるとしても、同時に建築から失われるものも大きいように思われる。ところが〈ｆｃａ〉で見せる堀部氏の態度は、そうした量産住宅の制約を必ずしもネガティヴなものには感じさせない。むしろそこで求められる機能性や合理性の先に、より豊かな建築のかたちが見据えられている。これは一体どういうことなのか。福岡のモデルハウスに取材したのち、堀部氏を訪ねた。